

## 【デジタルデンティストリーの最前線と今後の展望】

### Chapter 1 : 「CAD/CAM は、結局のところ、アナログである。」

賛否両論を生む一言ではあるが、本講演では、この真意についてお話ししたい。これまで、歯科業界全体において情報発信をする立場の一人として、歯科医師・歯科技工士の先生方に、CAD/CAM システムに関する提案を行い、臨床現場においてアフターフォローに携わってきた。近年、特に歯科医院で用いられる口腔内スキャナーにおいては、多種多様な機器およびアプリケーションコンテンツが発売され、これらをすべて使いこなすには、ユーザーの習得度にかなり個人差があると感じている。最終的には個人のポテンシャルを信じて、委ねざるをえない部分もあるのが現状ともいえる。また、インプット・アウトプット、さらにはブラッシュアップを行う際に、デジタルに対して、実のところ苦手意識のある方にとっては、労力負担がかかるのではないかと内心不安に感じていることも、正常な事実である。

たとえば、スマートフォンの場合、ホーム画面に自分好みの用途・目的にあったアプリケーションをインストールし、好きなときに・好きなだけ活用することができる。一般論では、扱い方を一度覚えたら比較的むずかしいと感じなくなるのがほとんどである。また、機器本体の見た目は全く同じスマートフォンでも、使い方は、ユーザーの使用頻度や、習得レベル次第であり、実に様々である。これらは、口腔内スキャナーやCAD/CAMシステムの要素においても、同様のことが言えるのではないだろうか。今後、さらに発展していくであろうデジタルデンティストリー時代に向けて、ユーザー側が用途・目的にあわせたデジタル機器を、自由にカスタマイズできる便利な時代になったからこそ、その一方で、次から次へとハイスピードで知識や技術として取り入れなければ、時代遅れの技工士とレッテルを貼られるように感じられる方もいるようで、せちがらい世の中になってしまったと感じている。

本講演では、実臨床において口腔内スキャナーを活用した際の困った症例ケースや、失敗したケースなど、ケースステディ形式でお話し、ご協力をいただいたユーザーの生の声や、今日からすぐに対応できる口腔内スキャナーのスキャンデータにおけるあらゆる対処法などを中心にご紹介したい。この機会にCAD/CAM システムや口腔内スキャナーを用いた補綴臨床について、ご聴講いただく先生方には還元できるよう、改めてお伝えしたい。

### Chapter 2 : 「デジタルデンティストリーは 流行り言葉で終わるのか？」

良くも悪くも、複雑化したデジタル診療環境において、業界全体がデジタルデンティストリーに恩恵を受けている現状に、ユーザーが厳選した“お気に入り”のシステムを運用するには、どうすれば良くなるのか日々模索した活動を行っている。私自身、技工業界ではかなりの若手である。世間一般では、いわゆる“ゆとり世代”であり、また、“デジタルネイティブ世代”とも呼ばれているが、個人的には、できることなら、デジタルに関わりたくないと思っていた人間である。今これから歯科技工士を目指す学生にとっては“デジタル機器は若い子がするもの”と目上の先生方から妙なプレッシャーを与えられ、それこそ、CAD/CAM に洗脳され、本来の歯科技工の真髄を自力で見出し、学ぶことが逆に難しくなっている環境になっているのではないかと感じている。試行錯誤を繰り返しながら CAD/CAM 技工の情報発信をしてきた立場から、会得できたデジタルとアナログの必要性およびデジタルデンティストリーの将来展望についてお話ししたい。

**【略歴】**

2015年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 専攻科 卒業  
(現：大阪歯科大学医療保健学部口腔工学科)

2015年 株式会社モリタ 入社

大阪本社 マーケティング部3グループ 配属

現在 大阪本社 営業本部 セールスプロモーション部2グループ

MORITA Digital Solution Center (MDSC) 所属

**【所属学会・資格等】**

岡山歯科技工専門歯科学院 CAD/CAM システム授業 特別講師